

令和4年度全国学力・学習状況調査分析と活用

質問紙調査結果の分析と今後の取組

熊本県教育委員会

「児童生徒に対する調査」の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。（最下部除く）

単位(%)

	質問項目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
慣基本的生活習	朝食を毎日食べていますか	94.6	94.4	+0.2	92.8	91.9	+0.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	90.8	90.4	+0.4	93.4	92.2	+1.2
	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか（「4時間以上」+「3時間以上、4時間より少ない」の割合）	29.4	30.7	-1.3	24.6	29.8	-5.2
自己規範意識、達成感等	自分には、よいところがあると思いますか	77.8	79.3	-1.5	77.5	78.5	-1.0
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	88.2	87.1	+1.1	88.4	86.6	+1.8
	将来の夢や目標をもっていますか	80.9	79.8	+1.1	67.7	67.3	+0.4
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.6	96.8	-0.2	97.1	96.4	+0.7
	学校に行くのは楽しいと思いますか	88.4	85.4	+3.0	86.0	82.9	+3.1
学習習慣等	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます。）	69.3	71.1	-1.8	54.7	58.5	-3.8
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。）（小学校は「30分以上」、中学校は「1時間以上」の割合）	85.1	85.2	-0.1	66.1	69.5	-3.4
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）（「10分以上」の割合）	55.8	59.6	-3.8	42.6	48.6	-6.0
	家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか（「そのままにしている」の割合）	15.5	11.6	+3.9	14.6	10.9	+3.7

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

「児童生徒に対する調査」の主な結果②

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質問項目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
地域社会や	今住んでいる地域の行事に参加していますか	55.3	52.7	+2.6	40.7	40.0	+0.7
	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	52.1	51.3	+0.8	42.5	40.7	+1.8
活用ICT機器の	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	50.1	43.9	+6.2	44.1	37.2	+6.9
	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	26.8	22.5	+4.3	25.4	17.8	+7.6
	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	95.2	94.4	+0.8	94.4	92.6	+1.8
主体的・対話的で深い学びの 学習の時間	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	59.4	65.4	-6.0	54.3	63.3	-9.0
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	74.7	77.3	-2.6	73.0	79.2	-6.2
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか	78.4	80.1	-1.7	76.9	78.7	-1.8
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	76.8	78.2	-1.4	70.5	74.7	-4.2
	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいましたか	73.2	72.7	+0.5	71.3	72.1	-0.8
理解度の	国語の授業の内容はよく分かりますか	85.1	84.0	+1.1	77.1	81.2	-4.1
	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	80.6	81.2	-0.6	69.2	76.2	-7.0
	理科の授業の内容はよく分かりますか	88.9	88.5	+0.4	69.7	75.2	-5.5

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」,「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

「学校に対する調査」の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
指 生 導 徒	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	87.5	87.2	+0.3	92.1	95.6	-3.5
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか	99.4	98.7	+0.7	99.4	98.1	+1.3
向 学 上 校 に 関 連 營 す る 状 況 教 員 の 資 質	校長として、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか(「週に1回程度、またはそれ以上行った」+「月に数回程度行った」)	84.2	73.2	+11.0	70.5	55.7	+14.8
	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	95.1	94.8	+0.3	92.7	91.3	+1.4
	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	96.3	94.2	+2.1	96.3	93.3	+3.0
	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加含む)	83.8	76.0	+7.8	88.6	73.0	+15.6
に び 主 関 の 体 視 的 点 ・ 取 組 対 話 的 状 況 の 授 業 改 善	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	91.8	87.2	+4.6	87.4	87.9	-0.5
	調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	78.3	75.1	+3.2	78.9	80.7	-1.8
	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思っていますか	84.1	80.9	+3.2	84.3	86.2	-1.9
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	91.8	88.0	+3.8	93.4	88.2	+5.2
家 庭 学 習	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか	97.9	96.5	+1.4	95.8	93.6	+2.2
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	93.9	89.7	+4.2	95.2	86.9	+8.3

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

「学校に対する調査」の主な結果②

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

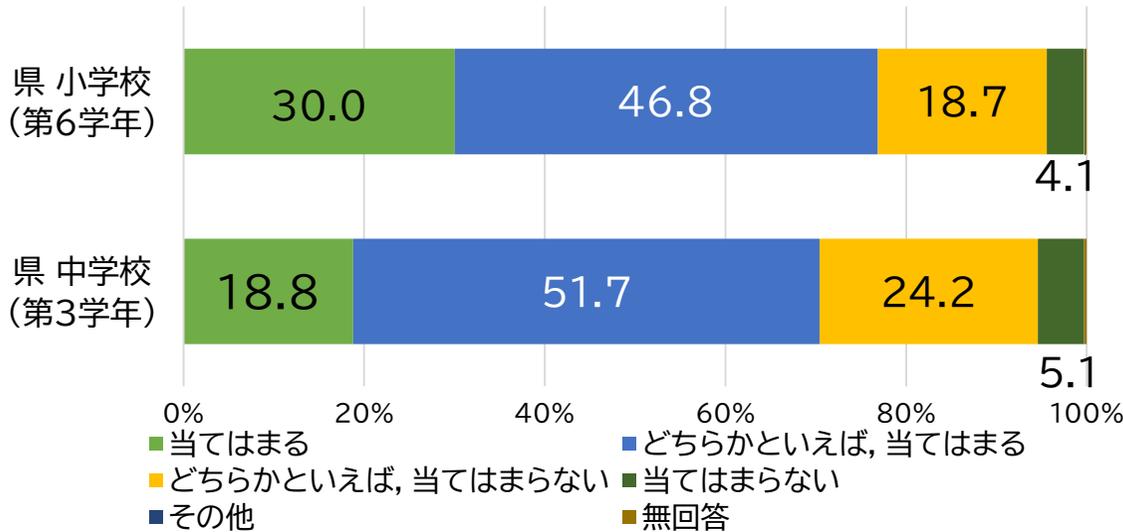
	質 問 項 目	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
ICT	調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	69.6	61.9	+7.7	62.1	56.2	+5.9
	調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますかどの程度行っていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	42.4	31.3	+11.1	40.9	27.8	+13.1
小中連携	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	58.5	52.7	+5.8	65.7	61.1	+4.6
	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	51.5	48.2	+3.3	65.1	58.0	+7.1
全学調の活用結果等	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	97.6	95.9	+1.7	98.8	92.7	+6.1
	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	97.3	91.7	+5.6	97.0	88.5	+8.5
新型コロナウイルス感染症への対応	令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童生徒に対する、夏季等の長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業・分散登校の期間中、家庭での学習としてどのようなものを行っていましたか（「全校で実施」+「一部の学年・学級で実施」の割合）						
	・教科書による学習（デジタル教科書を含む）	55.2	36.0	+19.2	53.0	33.6	+19.4
	・学校が作成したプリントなどによる学習（電子メールや学校のホームページなどを活用して配信する場合を含む）	59.8	41.7	+18.1	56.6	39.8	+16.8
	・同時双方向型オンライン指導を通じた学習	48.8	25.5	+23.3	47.5	24.8	+22.7

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、 「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

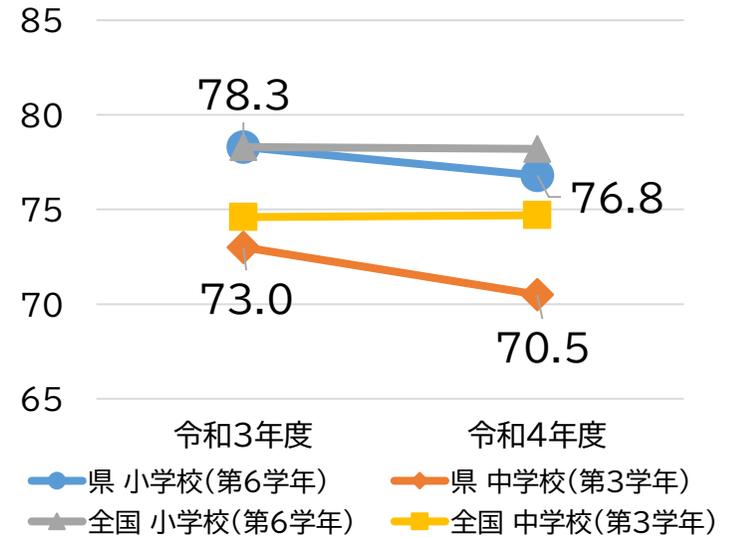
① 質問項目

【問 4 4】 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

② 結果



経年変化



③ 状況と分析

小学校では約8割、中学校では約7割の児童生徒が、肯定的な回答をしています。経年変化をみると、小中学校ともに、全国平均との差が開いている状況です。

このことから、児童生徒自らが、学習内容の分かった点等を実感する「まとめ」「振り返り」の在り方に課題があると考えられます。

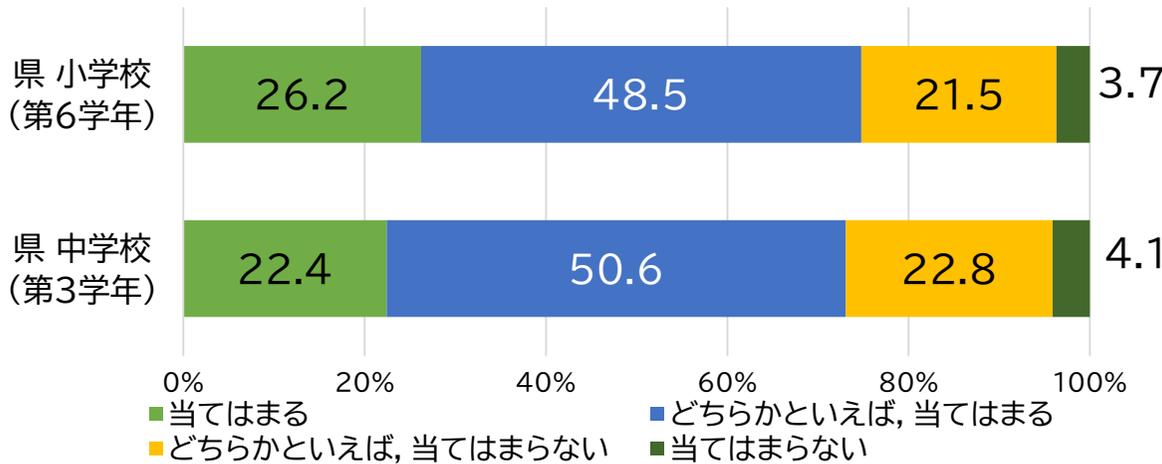
④ 今後の取組のポイント

- 授業中の理解が不十分であった児童生徒への支援
 - 日々の授業の中で習熟や定着を図る等の支援（習熟度別指導の充実）
- （「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱1の重点取組1より）

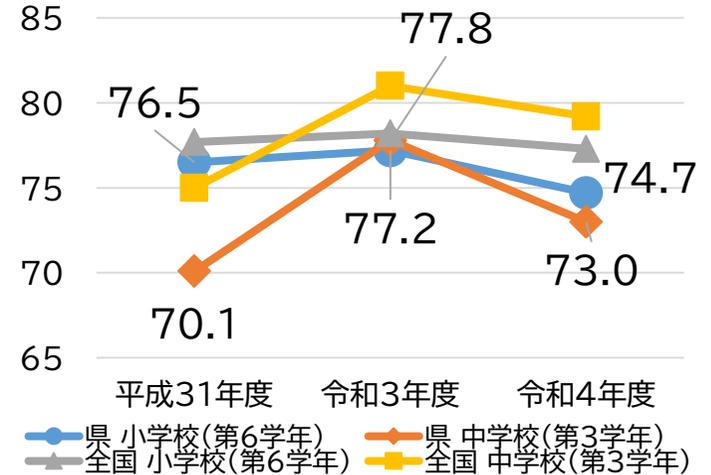
① 質問項目

【問39】 5年生まで（中学校は1，2年生の時）に受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか

② 結果



経年変化



③ 状況と分析

小中学校ともに7割以上の児童生徒が，肯定的な回答をしています。経年変化をみると，小中学校ともに，昨年より低下がみられ，かつ全国平均より低い傾向が続いています。特に，中学校で全国との差が大きくなっています。

このことから，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組む学習活動の量や質に課題があると考えられます。

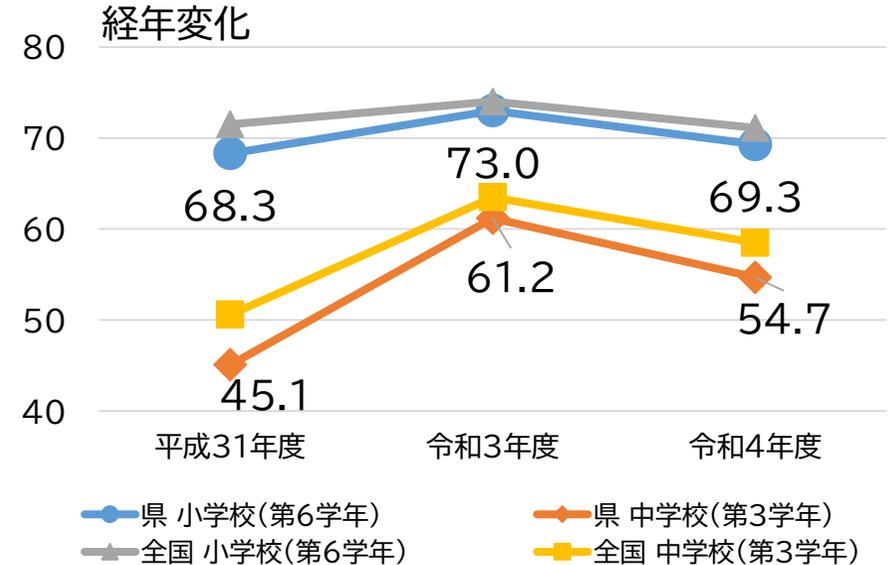
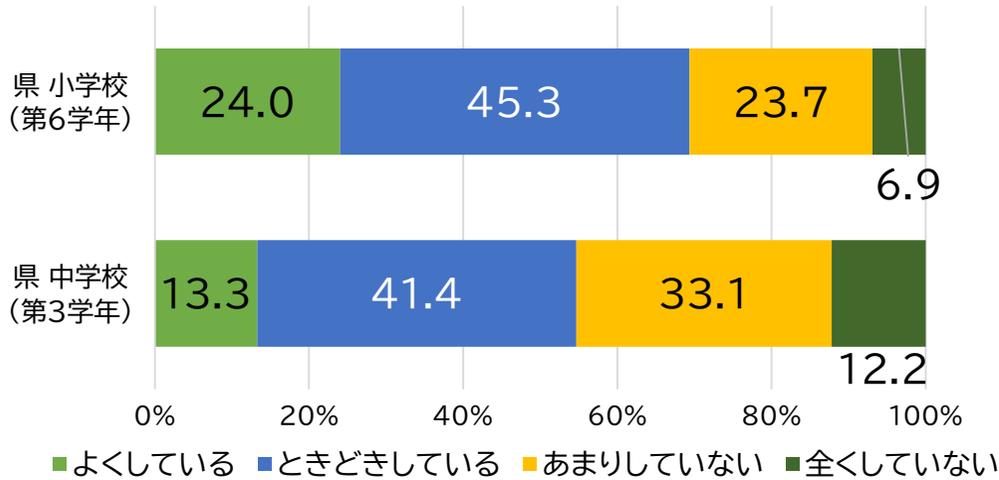
④ 今後の取組のポイント

- 授業において「自分で考える」「自分の学びを振り返る」等の自ら取り組む機会の設定
- 単元のゴールに迫る，単元を通した学習課題の設定
- ゴールの姿を実現するための学習活動の設定（「熊本の学び推進プラン」p29～P31より）

① 質問項目

【問20】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

② 結果



③ 状況と分析

小学校では約7割、中学校では5割以上の児童生徒が、肯定的な回答をしています。「よくしている」と回答した児童生徒は、小学校で約2割、中学校で2割以下です。経年変化をみると、小中学校ともに、昨年度より低下しており、全国平均より低い状態が続いています。また、前回と比較して、全国との差が開いています。

このことから、自分で計画を立てて学習に取り組むという機会や経験が不足していると考えられます。

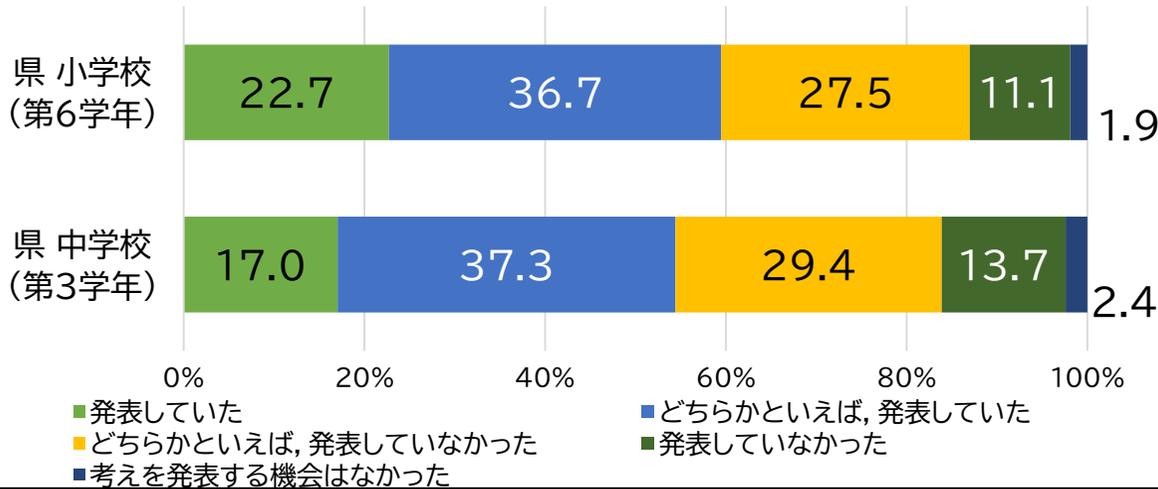
④ 今後の取組のポイント

- 家庭学習まで見通した単元デザインの工夫
- 家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習の工夫
(「熊本の学び推進プラン」p91～p100より)
- ICTを活用した家庭学習の取組

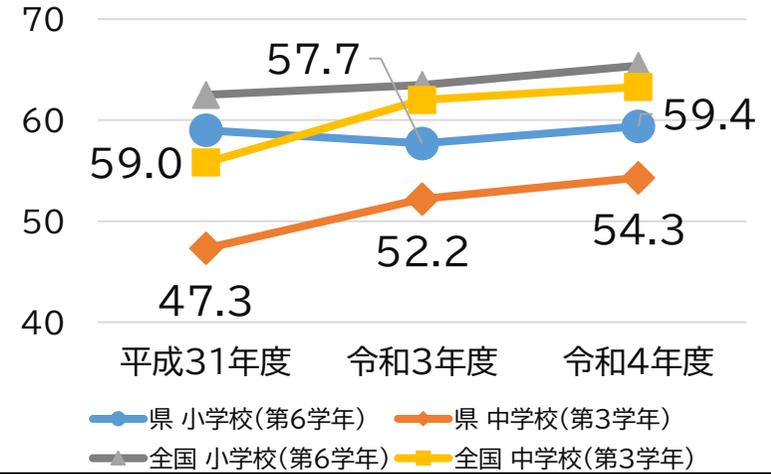
① 質問項目

【問38】授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

② 結果



経年変化



③ 状況と分析

小学校では約6割、中学校では約5割の児童生徒が、自分の考えを発表するときに、工夫して発表していたと回答しています。一方で、「発表していなかった」と回答した児童生徒が小中学校ともに1割程度存在しています。経年変化をみると、小中学校ともに、改善傾向がみられますが、全国平均を下回っている状況は続いています。

このことから、自分の考えを工夫して発表する機会が不足していると考えられます。

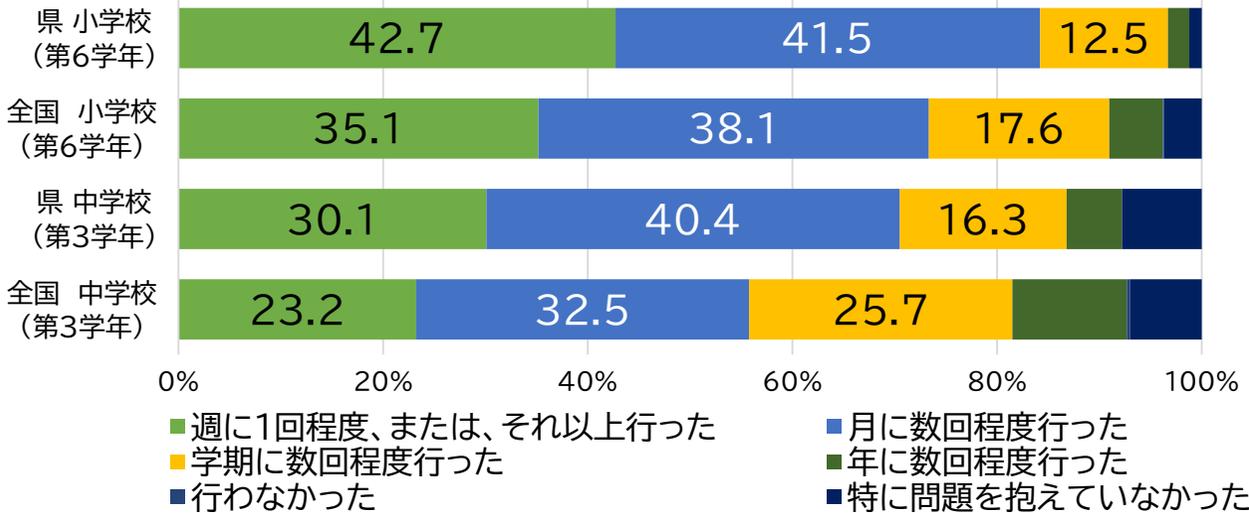
④ 今後の取組のポイント

- 発表方法等を工夫するための十分な時間の確保
- 書く目的や条件の明確化（教科書を読む範囲、キーワード、話の組み立て方、根拠や理由の示し方など）
（「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱1の重点取組より）

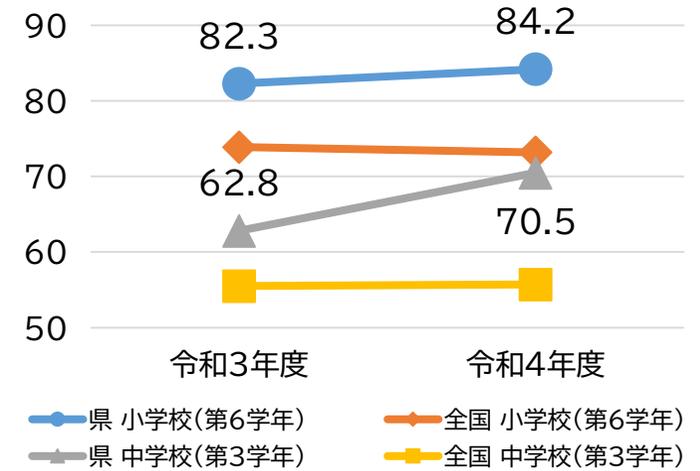
① 質問項目

【問 1 2】 校長として、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

② 結果



経年変化



③ 状況と分析

小中学校ともに、「週に1回程度、それ以上」「月に数回程度」と回答した割合が、全国に比べ10ポイント以上高い状況にあります。特に、中学校では、全国に比べ15ポイント以上高い状況です。

このことから、校長が意識して授業参観を行い、教員の授業力向上に向けた取組がなされていることが考えられます。

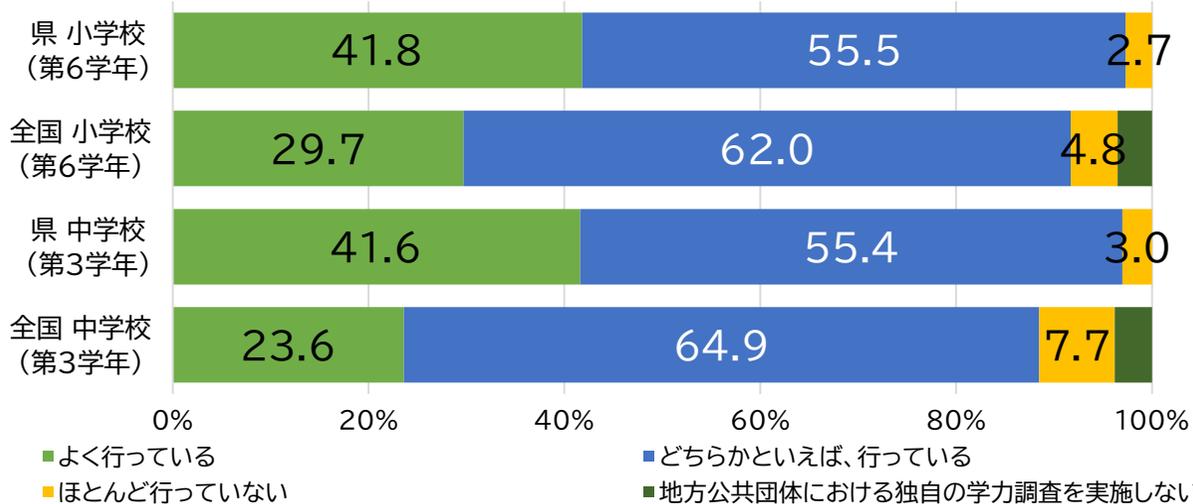
④ 今後の取組のポイント

- 授業観察の習慣化と個人面談の設定
- 校内研修の重点化
- 構想、省察の習慣化
(「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱2の重点取組より)

① 質問項目

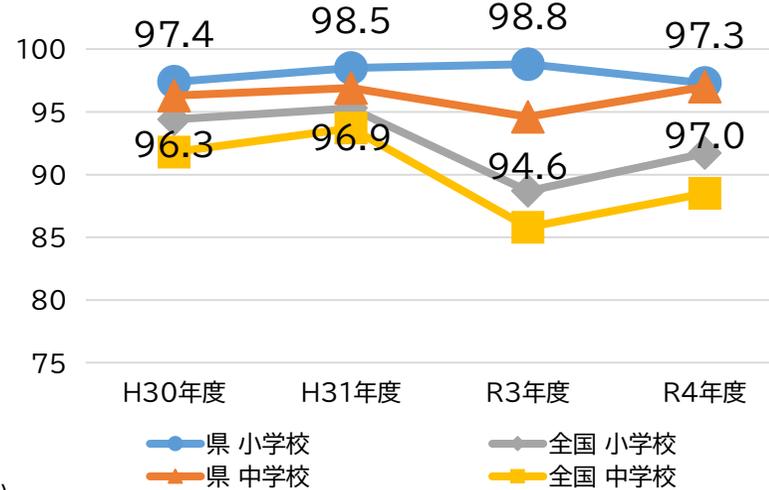
【問 8 1】 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか

② 結果



【経年変化】

「よく行っている」 + 「どちらかといえば、行っている」の割合



③ 状況と分析

「当てはまる」と回答した割合は、小中学校ともに10ポイント以上全国平均を上回っています。経年変化をみると、小学校が昨年より下降し、中学校は昨年より上昇しています。小・中学校ともに、全国平均より高い状態が続いています。

このことから、各学校が教科や学年の枠を超えて、学校総体となって資質・能力の育成に取り組んでいると考えられます。

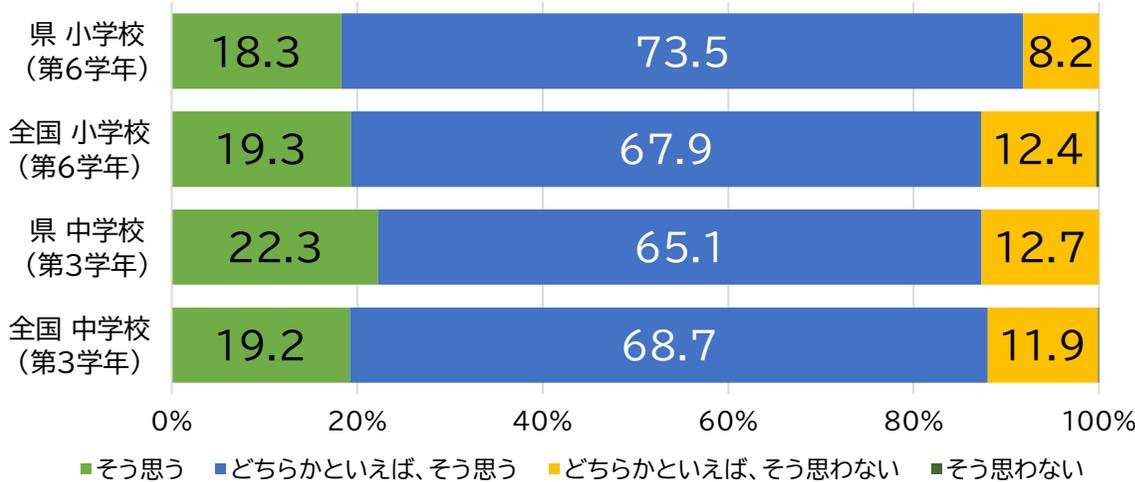
④ 今後の取組のポイント

- 12月の県学力・学習状況調査に向けた課題改善の取組
- 子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立
(「熊本の学び推進プラン」 p 75 ~ p 84 より)

① 質問項目

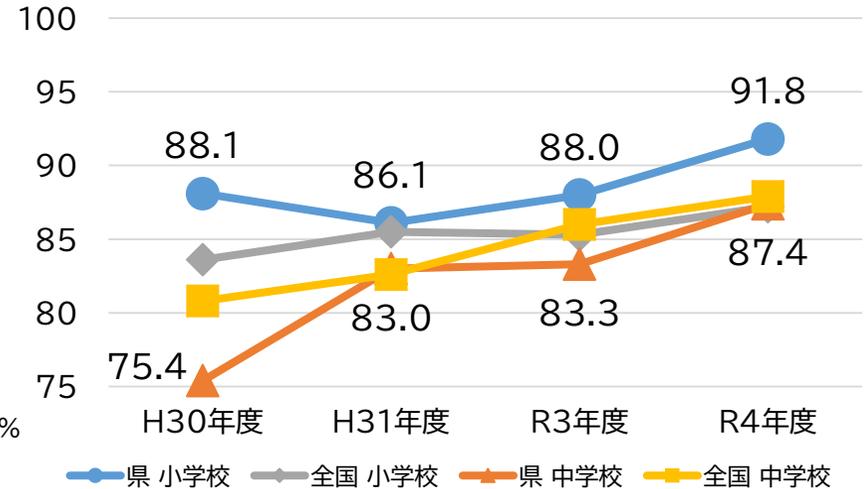
【問23】 児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

② 結果



【経年変化】

「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」の割合



③ 状況と分析

小学校では、肯定的な割合が全国値を上回り、中学校では、肯定的な割合は全国値と同程度です。経年変化をみると小中学校ともに昨年度と比較して上昇しています。

このことから、教師は、課題の解決に向けて、自分で考え、取り組む学習活動を意識して、取り組んでいることが考えられます。

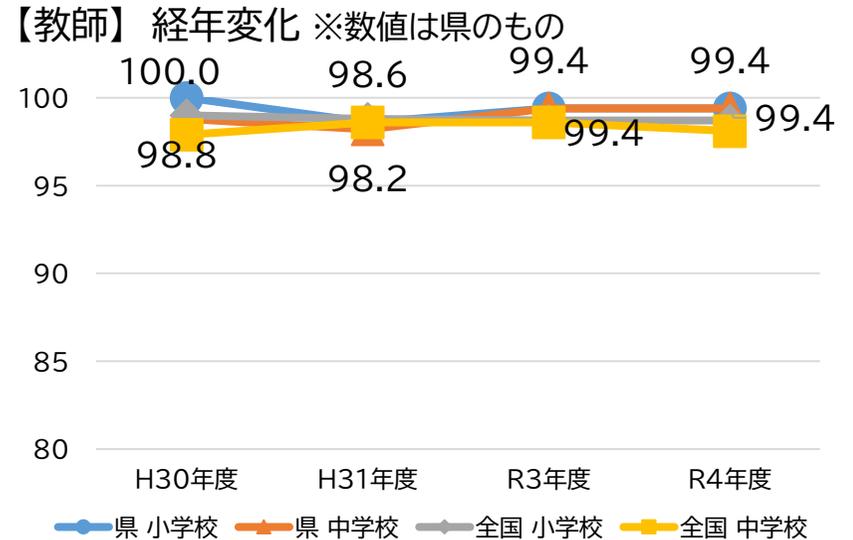
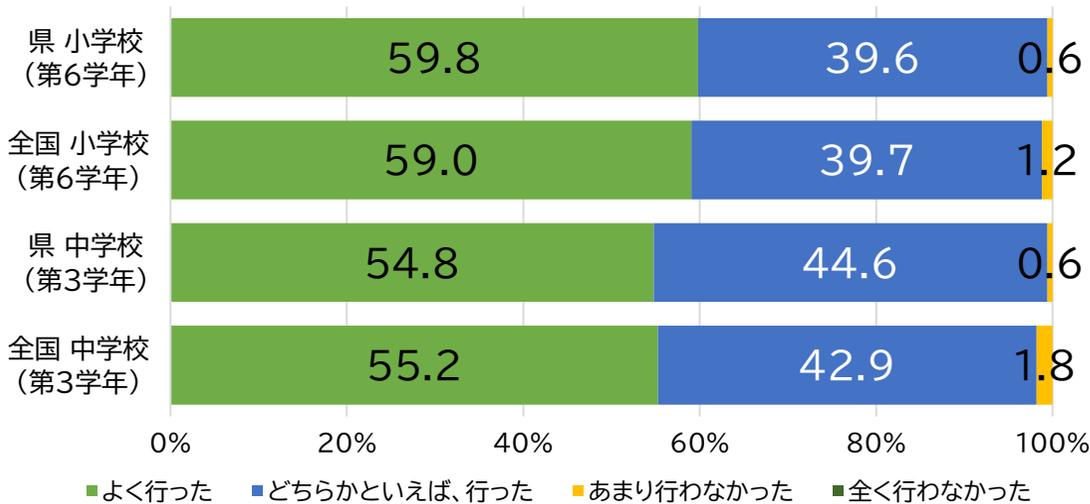
④ 今後の取組のポイント

- 単元全体を見通して、自ら取り組む機会を確実に設定
- 単元のゴールに迫る学習課題の設定、学習過程の構想
(「熊本の学び推進プラン」 p 3 1 より)

① 質問項目

【問10】前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか

② 結果



③ 状況と分析

小中学校ともに、全国平均を超え、肯定的な回答の割合が9割前後と高い数値を示しています。

経年変化をみると、昨年度と同じ状況が続いています。

このことから、教員が児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価しており、子供と教師の信頼関係が高まってきていることが考えられます。

④ 今後の取組のポイント

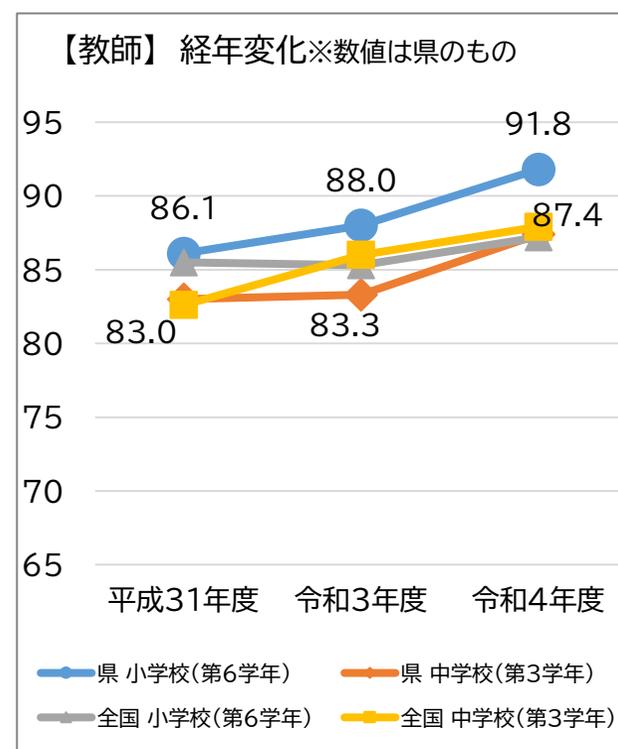
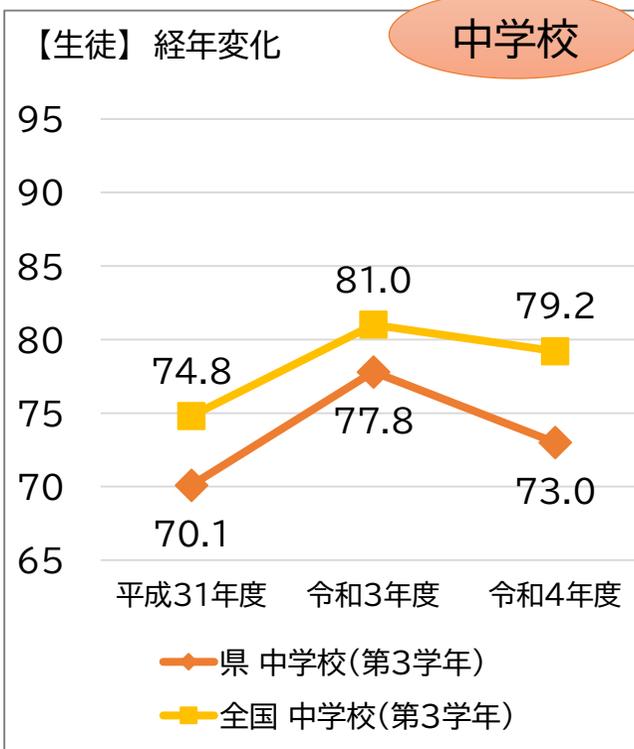
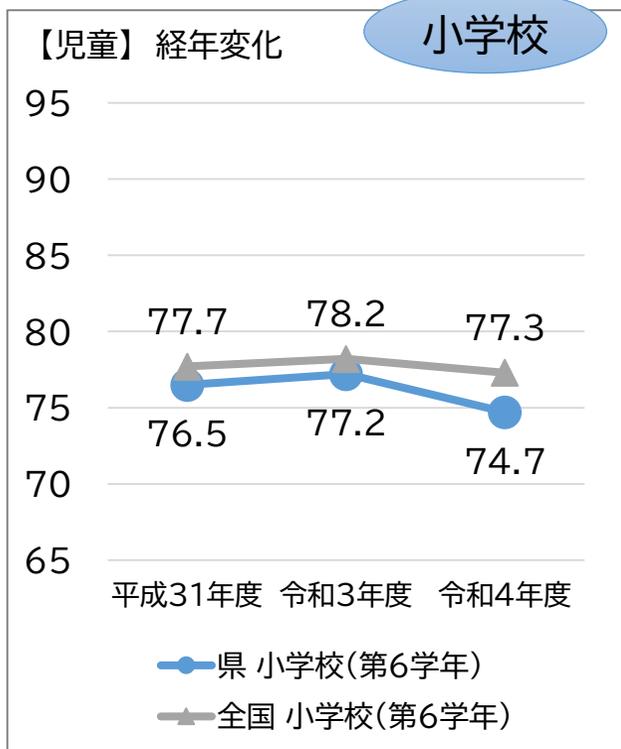
○安心と信頼にあふれ、高め合う学級づくりに向けた「熊本の教師の心がけ10か条」の実践
 (「熊本の学び推進プラン」p66～p72より)

2 児童生徒と学校（教員）の意識の差①

◇質問紙調査の分析（「熊本の学び」関連項目）

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合



○小中学校共に、全国値を下回っており、全国値と同様で下降している。

○特に、中学校で全国との差が大きくなっている。

○小中学校共に、前回より向上している。

子供たちの学びの側に立ち、主体的に学習に取り組む態度を高める手立てが必要

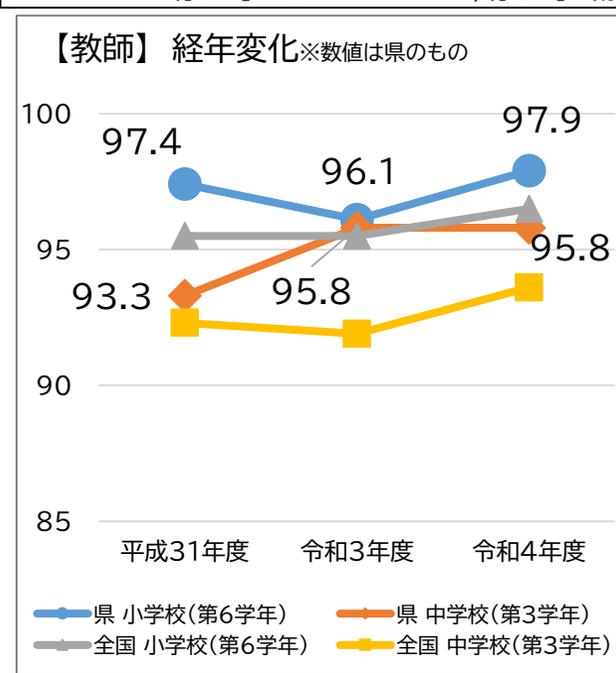
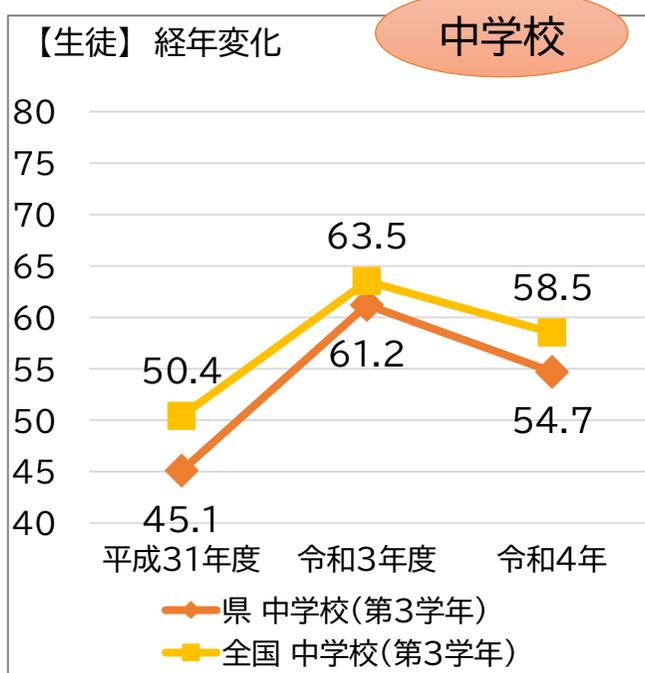
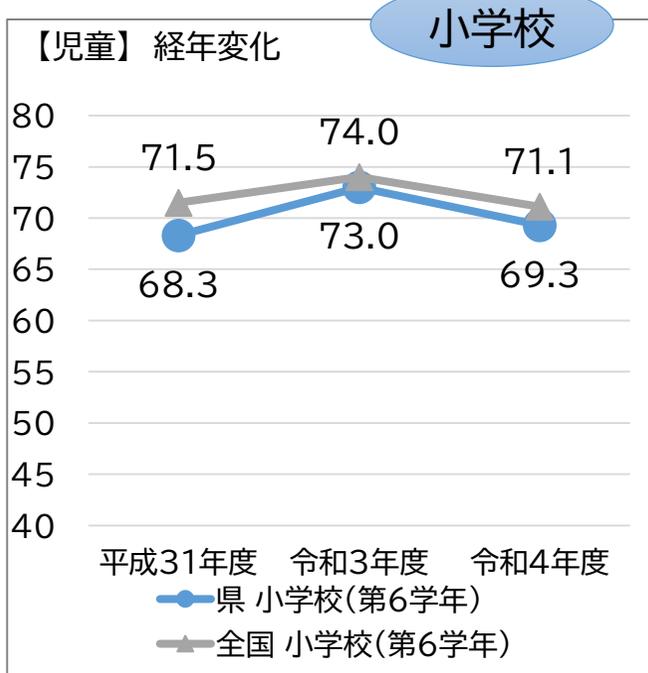
2 児童生徒と学校（教員）の意識の差②

◇質問紙調査の分析（「熊本の学び」関連項目）

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む。） 「している」+「ときどきしている」の割合

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。

「よく行った」+「どちらかといえば、行った」の割合



- 小中学校共に、全国平均より低い状況が続いている。
- 前回と比較して、小中学校共に全国との差が開いている。

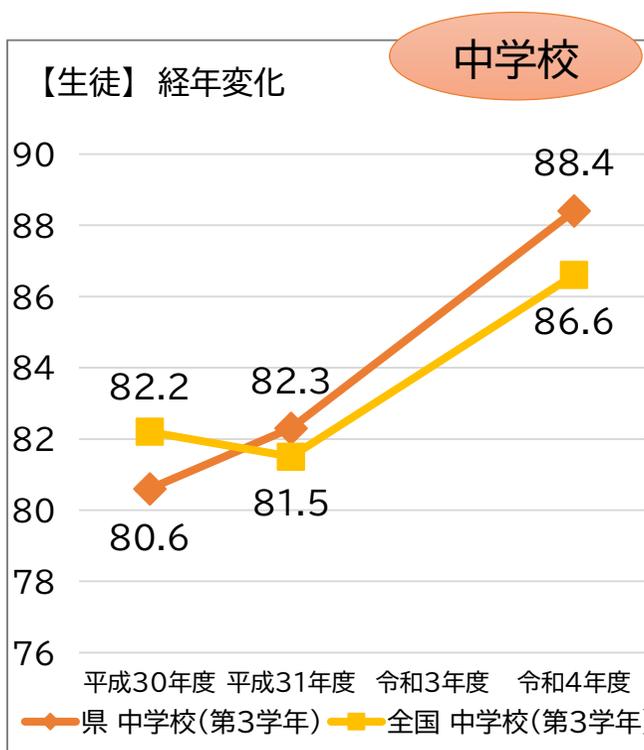
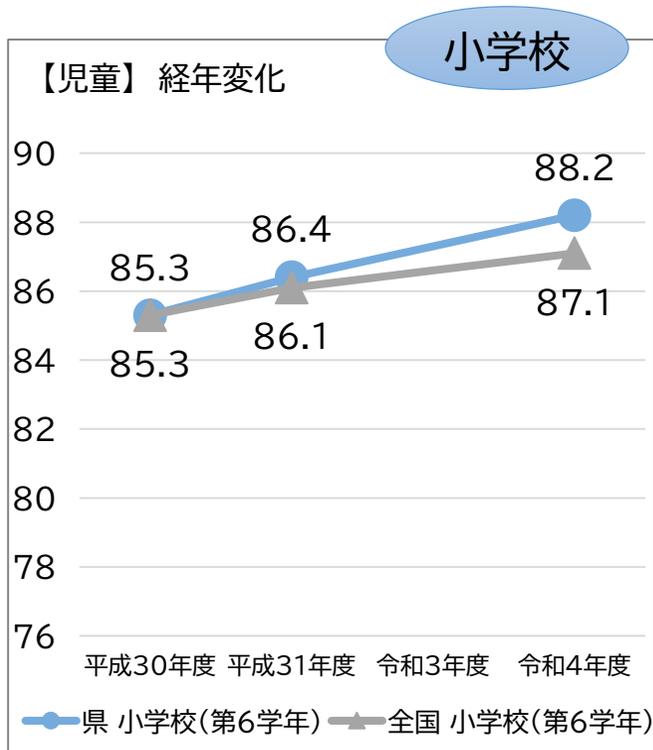
- 小中学校共に、全国値を上回っている。
- 依然として高い傾向にある。

子どもが主体的に家庭学習の取り組むことができるように、家庭学習まで見通した授業の工夫が必要

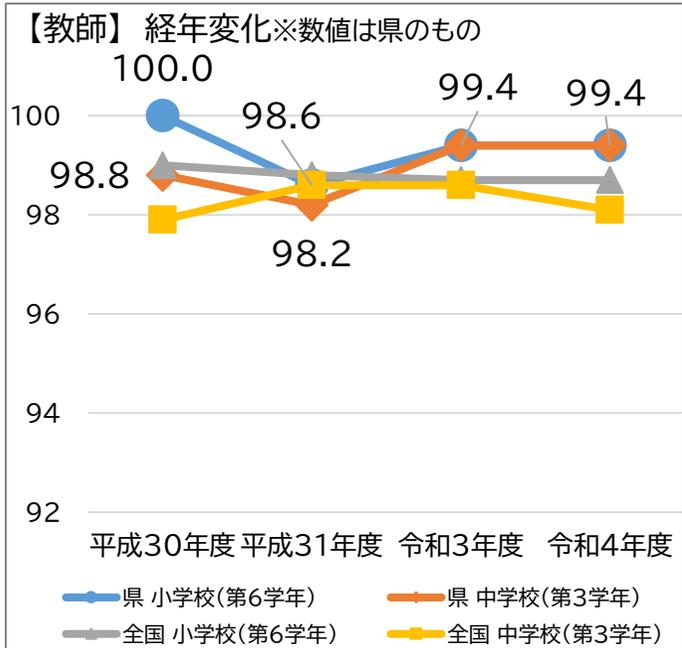
2 児童生徒と学校（教員）の意識の差③

◇質問紙調査の分析（「熊本の学び推進プラン」関連項目）

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
※R3年度は調査なし



前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか。



○小中学校共に、近年向上しており、全国平均を上回っている。

○小中学校共に全国平均を上回っている。
 ○中学校において、全国平均との差が開いている。

引き続き、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」県教育行動指標を踏まえ、
 支持的風土のある学級づくりに取り組むことが必要

3 成果と課題

【成果】

- 教員が、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価しており、子供たちも、「よいところを認めてくれている」と感じている。
- 子供たちが、「学校に行くのは楽しい」と感じている。
- 教員が、授業改善やカリキュラム・マネジメントを意識して推進している。

【課題】

- △児童生徒の学びに向けた主体性の発揮
- △教員の、児童生徒を学びの主体とするための取組
- △各教科における基礎基本の定着

4 今後の取組（各学校での取組に向けて）

1 児童生徒を「学びの主体」とするための指導の充実に向けた取組

- ① 授業における**主体的な学びを促す学習活動**の充実を
- ② **家庭学習**における主体的な学びの充実を
- ③ **定着確認**の徹底を



2 各学校での取組

- ① 学校教育目標（学年・学級経営，校内研修等）の実現につながる質問項目の**洗い出し**を
- ② 洗い出した質問項目について，表やグラフで**可視化**を
- ③ 結果を分析し，**課題改善の取組**を（いつ・何を・どのように把握）

※ 県教委HP：各学校での分析と校内研修での活用について【質問紙調査編】参照

※R4. 12月の県学調にて

〔取組の検証〕

※R5. 4月の全学調にて

4 今後の取組（取組の検証について）

〔取組の検証〕

※R4. 12月の県学調にて

※R5. 4月の全学調にて

本県の課題の改善に向けた指標

【参考指標1】児童生徒質問紙
授業では、課題の解決
に向けて、自分で考え、
自分から取り組んでい
ましたか。

「当てはまる」「どちらかといえば、当て
はまる」の割合の向上

【参考指標2】児童生徒質問紙
家で自分で計画を立て
て勉強をしていますか。

「よくしている」+「ときどきしている」の
割合の向上

【参考指標3】児童生徒質問紙
家で学校からの課題で
分からないことがあつ
たとき、どのようにして
いますか。

「わからないことはそのままにしている」
の割合の低下



各学校の課題の改善に向けた指標

各学校で設定した指標

状況の向上